



(豊岡)

## 兵庫・豊岡城館遺跡

とよおかじょうかん

1 所在地 兵庫県豊岡市京町

2 調査期間 一九九六年(平8)六月～一九九七年七月

3 発掘機関 豊岡市教育委員会・出土文化財管理センター

4 調査担当者 宮村良雄・谷本由美

5 遺跡の種類 城館跡

6 遺跡の年代 織豊期～江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

豊岡城館遺跡は、文献的には、戦国期、織豊期、江戸期およびそれ以降の時期に大別できるが、戦国期の山城に伴う館遺構は、当該

調査では確認できなかつた。

市立図書館新設に伴う今

回の調査で確認されたのは、

豊臣秀吉の北但馬支配の一

つの拠点として置かれた豊

岡城に伴う遺構が最古のも

ので、宮部善祥坊(天正八年(一五八〇))の時期にあ

たる。遺構は、掘立柱建物

や石敷などがある。

宮部以降、短期間で数代の領主が交替するが、慶長二年(一五九七)に杉原長房が配置され、城館部分の大改修をはじめ、豊岡城下町の大規模工事に着手している。調査では、礎石建物や掻手門、城館内郭の北西を画する石垣を伴う堀などを検出した。報告の木簡は、この石垣造営のための土の中から出土した。城館内郭の工事には、層厚にして1m以上の大量の土砂が盛土として使用されており、木簡を含む土は、城館の外堀掘削などによる近接地からの搬入土と理解している。以上のようない理解にたてば、木簡の具体的な年代は、一五八〇～九〇年代と考えられる。

杉原氏以後、天領の時期が若干あつて、寛文八年(一六六八)に京極氏が移封になり、豊岡城下町の拡大が図られているが、館部分はさほど顕著な土木工事はされていない。

## 8 木簡の釈文・内容

(1) 「 $\vee$ □衛門 殿□□」

・「 $\vee$ □□」

148×25×4 033

木簡は、上部の一端を欠くものの、ほぼ全容がうかがえる。形態および内容からみて、荷札であろう。

(瀬戸谷皓・宮村良雄)